

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 1 月 9 日 ~ 平成 15 年 1 月 15 日)

三宅島では噴煙活動が継続した。阿蘇山では孤立型微動の多い状態が継続した。桜島、諏訪之瀬島では噴火があった。



**注1** 記号の意味  
 ○ : 噴火した火山  
 □ : 観測データ等に変化があった火山  
 △ : 前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

**注2** 本文の火山名の後ろの[]内の[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ等を示す。

図1 記事を記載した火山

### 雌阿寒岳

1日に規模の小さい微動が発生した後に増加した体を感じない微小な地震は、今期間は、11日の21回を最高に、その後は1日当たり1~5回と減少し、合計は51回(前期間123回)であった。

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の高さは100~200mで推移しており、特に異常はみられなかった。

### 三宅島 [地震・噴煙・火山ガス]

振幅の小さいやや低周波地震が11日に8回、14日に6回と一時的に増加したが、総じて地震及び微動の活動は低調であった。

白色噴煙は連続的に噴出しており最高は火口縁上500m(9、15日)であった(前期間700m)。

9日に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測\*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し

ていたが、火山ガスを含む青白い噴煙は確認できなかった。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。

また、同時に気象庁が行った火山ガス観測\*では、二酸化硫黄の放出量は約4,100トン/日であった(図2)。

GPS観測では、三宅島の収縮を示す地殻変動は鈍化し、ほとんど停滞している。

\*海上保安庁の協力による

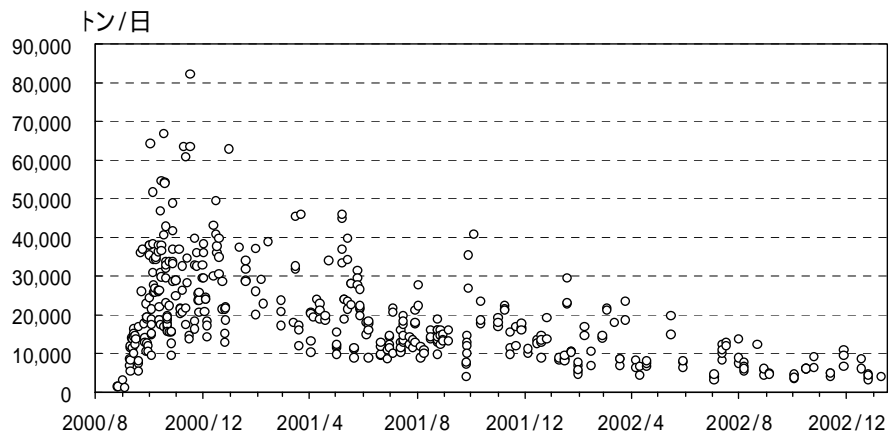


図2 三宅島 二酸化硫黄(SO<sub>2</sub>)放出量 (2000年8月~2003年1月)

### 阿蘇山 [微動]

依然として孤立型微動の多い状態が継続している。今期間の発生回数は1日当たり160~255回、合計は1,425回(前期間1,860回)であった(図3)。

地震の回数は少ない状態が続き、1日当たり1~6回で、合計は24回であった(前期間28回)。白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上400m(13日)であった(前期間500m)。

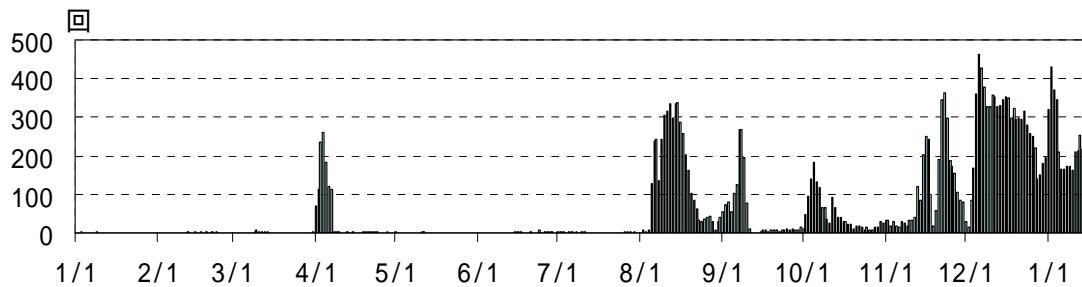


図3 阿蘇山 孤立型微動日別回数  
(2002年1月1日~2003年1月15日)

### 桜島 [噴煙]

13日に噴火が1回発生した(前期間1回)。噴煙高度の最高は火口縁上700m(14日)であった(前期間800m)。

鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

### 諏訪之瀬島 [爆発・空振・噴石・微動]

12日14時過ぎに噴火活動が一時活発になり、14時22分からの23分間、10Paを超える空振を伴う噴火が断続的に発生した。その後、同日15時台には爆発が3回発生した(今期間の爆発はこの3回のみ、前期間は4回)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、12、13日に火山灰の噴出が確認され、12日夜には少量の噴石が火口付近に噴出しているのが観測された。噴煙の高さの最高は火口縁上500m(13日)であった。また、島内の集落(御岳の南南西約4km)では、12日14時過ぎには爆発音が、12~13日にかけては鳴動が聞こえた。

噴火活動の活発化を示す微動の発生状態が12日07時以降高まり、連続微動状態となって16日24時現在も継続中である。

### 表 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第12号 (1日2回発表)	9日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第25号	15日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第2号	14日 10:10	孤立型微動の多い状態が継続、中岳第一火口の噴煙活動・湯だまりの状態に大きな変化なし